

幼児教育に求められる国際性とは何か

——— 米国人研修生受け入れ事業がなげかけたもの ———

尾崎 春人(銀鏡幼稚園) 〇芹沢 澄子(銀鏡幼稚園)

I はじめに

今日日本の社会のあらゆる層において、国際化の重要性と緊急性が認められている。政治、文化、経済に限らず各国の生存そのものが世界的連帯の外では危ぶまれつゝあり、特に世界の平和の維持は今や全世界人類の共通課題である。

世界の平和は一人々々の努力の報州によるものであることは歴史的な事実であり、その人々の心に平和への強い信念と希望を刻むことにおいて、教育という営みの担う役割は大きい。

教育の始点に位置する幼児教育を、平和教育の視点よりとらえ、国際性(化)との関連においてさぐることの意義は大きい。

II 研究の方法

1987年6月1日より8月8日までの10週間に亘り、横浜市の米岡サンディエゴ市の姉妹都市30周年を記念する事業として、本園はサンディエゴ市、ラメラ、ディール小学校教諭、ハメラ、A、ストンブレイカー(27才 女性)を研修生(5才児クラス副担任)として受け入れた。この交流を通して子ども及び研修生自身の心の中に育ったものは何かを、実践報告他に基づいて考察する。

III 実践内容と考察

1 実践の内容

(1)ハメラ、A、ストンブレイカー(白人女性 27才)は、自費で来日し、62年5月31日より同年8月8日の間、銀鏡幼稚園々長宅にホームステイし、その間月額3万円のステイ費を負担し、幼稚園では平日を下記の様なお活動で過ごし、日給4,800円を支給された。

(2)週間日程表の一部を表-1に示す。

表-1

曜日	月 曜
8:30	出勤 教材準備、環境設定、子どもを迎える
9:00	年長Aクラス(担任M教諭の助手として) 点呼など
9:20	自由活動(異年齢集団による自発的活動) 運動、絵画製作、視聴覚、ダンス、指人形、 プール活動などに保育者として参加

10:45	年長Bクラスにて(5才児集団の英語による指導)手あそび --- Fire monkeys うた --- BINGO サンディエゴ動物園ビデオによる紹介
11:30	昼食(年長Aクラスにて)
12:45	年少クラス(3才児集団の英語による指導) ゲーム --- Duck Duck Goose うた --- Ten little Indians
14:00	園児5宅訪問
14:45	日本語を学習する(テキストを用いて)
15:00	休憩
15:30	ワークショップ ①インディオエギより「Qio de dios」の製作 ②陶芸(茶わんをつくる) ③英会話の指導
16:30	退園

2. 子どもたちに与えたもの

研修生を自宅へ招いてくれた母親達による座談会の一部を紹介する。

—— 座談会「ハメラ先生を迎えて」より ——

司会:ハメラ先生がいらしたことに、子どもたちの反応又家庭で子どもたちからどのように話題にのぼったかなどについてお聞かせ下さい。

母親(M):「今日からハメラ先生が来て一緒にあそんだよ」といっていました。歌と踊りが好きなので家に帰ると毎日「ライズモンキーズ」や「ビンゴ」をやってくれました。

(M):特に普段と変わったところはなく、たまに「おかあさんこれ知ってる」といって「ビンゴ」や「ライズモンキーズ」をうたっていましたね。「これ英語、ていうんだよ」といっていました。

(T):拒絶感はありませんが「こんなに大きな人が来たんだよ」といっていました。日本人ではないのに日本語がわかるらしい。何も言わないのに「ありがとう」と言ったから日本語がわかるはずだとか、ひどく驚きと興味があったようです。ゆきわり草にS先生が「ビンゴ」の歌詞を書いて下さったので親も納得し、家中で「ビンゴ」はやりになりました。

(N):うちの子ども先生外人なのに「おはよう」とか「

こんにちは」とか「かわいい」とか日本語しゃべれるんだよと驚いていました。

司会：銀嶺ではもう数年前からいろいろな国の挨拶を覚えたり、いろいろな国に親しんだり、他の幼稚園に比べて国際化が進んでいると思われるが、子どもにとって国際化とは何か、幼稚園の中の国際性とは何かについてお聞かせ下さい。

(V)：今回はよいチャンスに恵まれて良かったとおもいます。

(S)：以前にも外人の先生がいらしたとか。

司会：今から9年前にニューヨーク州立大社会学科新卒の青年を受け入れました。約8ヶ月ほどおりました。その後もう人程英会話教室の講師として来ておりました。ここ数年世界のいろいろな国の挨拶を園長から教えてもらっています。又、帰国して編入する方が多いので、ペルーの木下さんからペルーの国の挨拶、食べ物、あそび、文化等子どもたちに紹介していただいたり、教えていただいたりしました。ドイツ語の挨拶をしていた時は、ドイツの宣教師の方に来ていただき、歌や絵本を読んでもいただいたりしました。比較的外国人と接する機会が多いとおもいます。

(V)：外国人の中に入ると日本というのは浮き上がってしまうように感じますが、日本人がむこうへいったらどんな歓迎をしてくれるのでしょうか。

(S)：歓迎なんてありません。外国人は異様な目で見るようなことはありません。ただ何かお手伝いしたいなと思った時は声をかけてくれますが、日本人のようにお世話はないのでかえってやりやすいですね。極端な話、人が何を着ていようが関係ないというようにみえています。イギリス人のご夫婦がとかく日本の幼稚園は大変だと言っています。銀嶺のようにオープンな幼稚園は未だ少ないですから。

(V)：うちの子どもも編入したのについて比較してしましますが、よかったと思うのは自分で好きなことを選んで伸び伸びと出来ること、思った通りに動いてくれるので、家では全くストレスがないようです。前の園は時間を短く区切っているなことをさせていたので、まず椅子に座らせることを教えていました。1学期が終わって考えることは、歌とか絵が以前より少なくなったような気がします。これは親が思っているだけで、気にしている分、親が補ってやれよと考えています。比較的歌や絵が好きなので同じような良い体験をさせてあげたいと思います。そうゆう意味で外人から直接指導を受けられる機会を持って下さるというのは良いことだと思います。

(V)：生の英語と接するということは大事だと思います。ビンゴの歌にしても私達は頭で理解しようとしませんが、子どもは感覚で覚えていこうとするとそこが異なりますね。そこが単なるアメリカ人ではなく、サンディエゴの現職の先生ですから上手なのでしょうね。

3. 研修生が学んだもの

研修生が、研修の最終日に近づいた8月6日、私達に残したメッセージ(現文通り)及び師団後郵送してきたクリスマスカードを紹介する。

お別れのことば 62年8月6日

2ヶ月前、私はアメリカから先生として日本にやって来ました。

私はみなさんに歌やダンスやゲームを少し教えてあげました。でも本当はみなさんが私の先生でした。なぜなら私はみなさんからたくさんのお話を教えていただいたからです。

みなさんは私に日本語や歌やゲームを教えてくださいました。そして毎日私が幼稚園に来ると「グッドモーニング」「こんにちは」といって私を励ましてくれました。保護者のみなさんは、私に日本の工芸やお料理、そしておもてなしの方法を教えてくださいました。そしてみなさんのお子さんと共に過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。みなさんが家でお子さんと共に過ごしている時の私への関心の強さは、幼稚園での子どもたちの生活を通してよく伝わってまいりました。

教職員の皆様、私に日本の文化やお料理、教育を教えてくださいありがとうございました。そして特に先生方の友情に感謝しております。

私が当園で楽しく働けるように、おいふんときびしい配慮を私にしてくれていることに気付いていました。大変感謝しております。

私は銀嶺幼稚園で、日本での楽しい日々を送りました。たとえコミュニケーションをとることがむずかしくても、私は言葉の障害を乗り越えられると思います。

クリスマスカード (62. 12. 24 受信) より

近頃の私は、どこへ行っても日本の幼稚園での過ごした夏の教員の経験話を話してしまっています。

今年は一年生だけを担任することになりましたが、何か今までとまるで違ったものを、そして何かにはチャレンジしようとする私を感じます。

144ラ、A、ストーンブレイカー

4. おすび 口頭発表において口述する。以上